

2026年5月20日

## 向後 康弘 ステートメント

このたび、6月の取締役会を持ちまして代表取締役を拝命することとなりました。辻社長がこれまで育て上げてきた森ビルを受け継ぐという大役に、大変身の引き締まる思いであります。

先ほど、辻社長も触れておりましたが、改めて自己紹介をさせていただきます。

私は1991年に森ビルに入社し、六本木ヒルズの再開発の現場に配属されました。2003年に六本木ヒルズが開業した後は、辻社長が新たに立ち上げたタウンマネジメントのチームに加わりました。20代、30代という若い時分に、どこにも前例のない挑戦に加われたことは私の大きな財産になったと思っております。

なかでも忘れられませんのは、400人もの権利者の方々から再開発組合設立の同意書を集めたときのことになります。何年話し合いを重ねても同意してもらえない方もいましたし、夜しか会えない方もいらっしゃいました。担当者の帰りをチーム全員が夜中まで待っていて、「同意がいただけた」と聞くとどっと歓声が湧き上がっていました。年齢も役職も関係なく、チームが一つになって新しい街を生み出そうと懸命になっている状況がとても印象に残っております。私にとっても、入社して初めての仕事がようやく形になりそう、節目に辿り着けそうだと、とても興奮しておりましたし、新しいものを生み出す大変さも経験をすることができました。

そして、六本木ヒルズが開業し、街が人で溢れ、皆が笑顔で楽しんでいる景色を見ることができたときには、例えようのない喜びを感じました。都市づくりの醍醐味はまさにここにあり、これが私の原点であり、仕事の根幹になっています。

その後、虎ノ門ヒルズや麻布台ヒルズなど複数の再開発事業の事業計画の責任者や、経営企画、秘書、広報の担当役員も経験し、昨年からは国内の再開発事業を所管する立場をしているところです。

都市づくりは、幅が広く、奥が深く、様々なものが絡み合う複雑なものになります。私は入社してから30年以上、辻社長の背中を見て「都市づくり」を学んで参りました。その中で、辻社長の、都市の全体像から細部に至るまでこだわり抜き、決して妥協しない姿や、様々な才能や良いモノを選び抜くセンスと、それらを積極的に取り入れる貪欲さを目の当たりにして

きました。そして、全てが街のクオリティや豊かさに繋がっていくことを、身をもって体験し、都市に対する志や、情熱、姿勢の大切さを学んで参りました。

辻社長から今年に入って社長交代の話を聞き、正式に「次の社長に」と言われたのは4月に入ってすぐのことです。予想していなかったことでしたし、その責任の重さに即答することはできませんでした。しかし、「森ビルの次の10年、20年のために、このタイミングで世代交代が必要だ」というお話、『『森ビルらしさ』を将来に向けてつないでいってほしい』という想いを伝えられ、覚悟を決めました。

社長を引き継ぐにあたり、私が最も大切にしたいと思っていることは、「森ビルらしい都市づくりを追求し続けること」、これに尽きます。

森ビルは都市づくりの会社です。都市に真摯に向き合い、あるべき都市とは何かを考え続け、その実現に向けて挑戦を続ける。それが森ビルという会社の魅力の源泉であり、最大の強みだと思っています。この揺るぎない軸を引き継ぎ、森ビルらしく進んでいくことが、社会から必要とされる会社で在り続けるために、そして、経営をさらに強くしていくためにも重要だと考えています。

そのために何よりも重要なのは「人」になります。「都市づくりには人が一番大事だ」と、辻社長もずっと言い続けてきたことですが、弊社には都市づくりが好きな人たちが集まっており、多彩な才能を持った人がたくさんおります。こうした社員一人りひとりが、都市づくりへの情熱や能力を如何なく発揮して、様々な挑戦を通じて成長していく、そんな会社であり続けたいと思っています。

六本木5丁目プロジェクトをはじめ、今、抱えているプロジェクトはたくさんあります。既存のビルズもポテンシャルを伸ばす余地がまだまだたくさんあります。挑戦の機会と場は揃っていますので、これらを通じて人と組織の成長を図っていきたいと思います。社員が挑戦し成長していく土壌を、もっともっと耕していくことが、私の最も重要な仕事になると思っています。

現在、大規模再開発を進めていく上で、建築費の高騰や工期の長期化、金利の上昇、人手不足、インフレによる様々な原価の上昇など、とても厳しい事業環境があります。また一方では、人々の仕事の仕方、生活の仕方、学び方や楽しみ方などがどんどん多様化し、また、新たなテクノロジーや既存の領域にとらわれない発想も、都市に求められてきております。今まで以上に、「世界から選ばれる都市とは何か」、「人々が求める都市とは何か」を追求しなければ

ならないと思っています。

社員ひとりひとりの自由な発想や想像力、挑戦心をさらに発揮できるような組織や体制づくりを進めると共に、様々な才能を持ったパートナーとのネットワークをさらに活用できるようにしていきたいと思っています。

「森ビルらしさ」を社員全員が一つのチームになって受け継ぎ、「都市をつくり、都市を育む仕事」を通じて社会に貢献し、東京ひいては日本の発展に微力ながらも貢献していけるよう、全身全霊をもって取り組んでまいります。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。